

第6 健康・安全のための知識と技術の普及

赤十字救急法等5つの講習を、ボランティア指導員と協働して実施し、延べ32,000名に対し、日常生活における健康・安全のための知識と技術の普及に努めた。

平成21年度は、AED（自動体外式除細動器）の設置が進んでいる現状を踏まえ、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動の方法などの知識・技術が習得できる、救急法基礎講習を重点的に開催した。

また、平成21年度から、救急員等資格者を対象に資格を継続することができる「資格継続フォローアップ研修」を新たにスタートさせた。

なお、平成4年度から開催し、18回目を迎えた救急法フェスタは、多くの参加申込を得て準備を進めていたが、新型インフルエンザの感染拡大により中止を余儀なくされた。

1 救急法等講習会の開催

(1) 救急法講習

日常生活における事故防止をはじめ、意識障害、呼吸停止など直ちに手当が必要な傷病者に対し、救急隊が到着するまでの間に迅速に救命の手当を行うための知識・技術を学ぶ「基礎講習」や、病気やケガや災害から自分自身を守り、急病人やケガ人を正しく救助し、医師に引き継ぐまでの、誰にでもできる応急手当の知識や技術を学ぶ「救急員養成講習」と、その一部分を学ぶ「短期講習」を開催した。



(2) 水上安全法講習

水と親しみ水の事故から人命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法などの知識と技術を学ぶ「救助員養成講習」と、その一部分を学ぶ「短期講習」を開催した。

特に学校のプール開始前の時期などには、洋服を着たまま泳ぐ着衣泳や、身近なペットボトルなどを用いての自己保全の方法などを学ぶ短期講習を開催した。



(3) 雪上安全法講習

スキー場などでの雪上の事故から生命を守るための知識や、技術などを学ぶ「救助員養成講習」と、その一部分を学ぶ「短期講習」を神奈川県支部との共同で開催した。



(4) 健康生活支援講習（旧家庭看護法）

誰もが高齢期をすこやかに迎えるために必要な健康増進の知識や、高齢者の介護支援・自立に向け役立つ介護技術を学ぶ「支援員養成講習」と、その一部分を学ぶ「短期講習」を開催した。

なお、高齢化社会の進展に伴い関心が高まっている健康増進・介護予防等に役立つ講習を付加し、より受講生のニーズに即した内容に再編するとともに、従来の講習単位（12時間）を2時間の6回に分割し参加しやすい講習形態にした。

(5) 幼児安全法講習

乳・幼児期に起こりやすい事故の予防とその手当、かかりやすい病気や発熱・けいれんなどの症状に対する手当などの知識と技術を学ぶ「支援員養成講習」と、その一部分を学ぶ「短期講習」を開催した。

(6) 救急法救急員等資格継続研修

救急員等の資格は、有効期間が3年間であり、その資格を継続するためには、養成講習の全課程を再受講し検定に合格する必要があったが、平成21年度から平成19年4月以降に救急員等の資格を取得した人は、資格継続研修を受講することによりさらに3年間資格を継続できることとなったため、雪上安全法講習を除く4つの講習の資格継続研修を行った。

(7) その他特色ある講習

ア 赤十字奉仕団や青少年赤十字採用校等の要請に基づく講習

赤十字事業への協力者として、互いに助け合うボランティアの精神を養い、事故防止と傷病者の応急手当等が積極的に実践できるよう、奉仕団員や青少年赤十字指導者・メンバー等を対象とした講習の普及に努めた。

イ 企業等の要請に基づく講習

企業や社会福祉施設の職員、教職員、幼稚園・保育園の職員等を対象とした救急法及び幼児安全法の普及に努めた。

ウ 乳幼児の保護者を対象とした講習

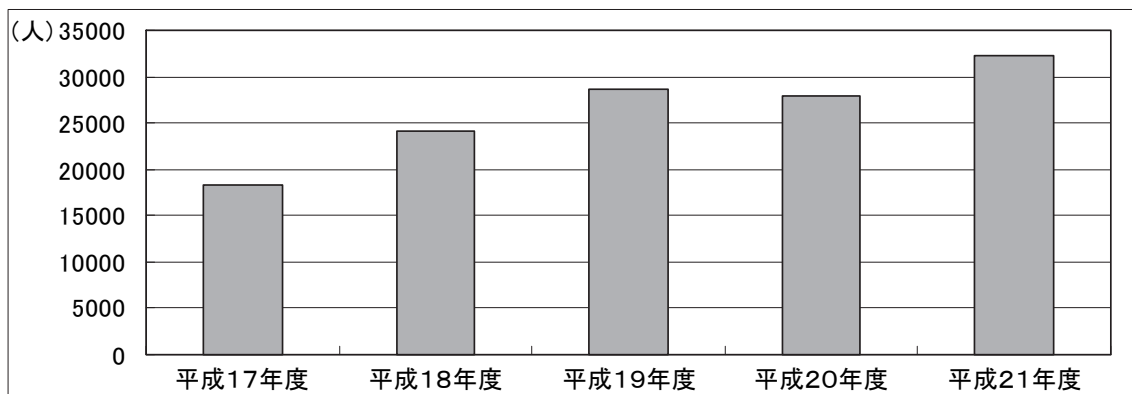
赤十字地域奉仕団の協力を得て乳幼児の託児を行いながら、その母親・父親を対象とした託児付き幼児安全法講習（パパ・ママ安全教室）を地域で開催した。



各講習会の実施状況(平成21年度)

講 習 名 称	実施回数(回)	受講者数(人)	認定者(数)
救急法	基礎講習	129	3,310
	救急員養成講習	74	1,734
	短期講習	479	19,481
	資格継続研修	21	213
	計	703	24,738
水上安全法	救助員養成講習Ⅰ	6	162
	救助員養成講習Ⅱ	2	33
	短期講習	7	514
	資格継続研修	3	11
	計	18	720
雪上安全法	救助員養成講習Ⅰ	1	15
	救助員養成講習Ⅱ	1	15
	短期講習	1	3
	資格継続研修	0	0
	計	3	33
健康生活支援講習	支援員養成講習	8	101
	短期講習	85	3,172
	災害時高齢者生活支援	23	671
	資格継続研修	1	1
	計	117	3,945
幼児安全法	支援員養成講習	11	230
	短期講習	103	2,508
	パパ・ママ講習会	31	654
	資格継続研修	3	19
	計	117	2,757
総 合 計	958	32,193	5,283

講習実施状況 年間受講者数



2 指導体制の強化

(1) 指導員養成講習

「赤十字の理念と使命を理解し、十分な知識と技術を持った指導力のある実働的な指導員」の養成を図ることを目的に、救急法指導員養成講習会を開催し、15名の指導員を養成した。

- 1) 期 日：平成22年2月11日(木)～15日(月) 5日間
- 2) 会 場：千葉県赤十字会館 6階大会議室
- 3) 合格者数：15人

(2) 資機材の整備

講習用資機材を整備し、講習体制の充実を図った。

- | | | |
|----------|-----------------|-------|
| 1) 救 急 法 | リトルアントレーニングシステム | 10セット |
| | AEDトレーナー | 12台 |
| 2) 水上安全法 | 講習用ライフガードチューブ | 10本 |
| 3) 幼児安全法 | ベビーアン（4体セット） | 1組 |
| | 心肺蘇生訓練用CPRテディ | 2体 |

3 イベント等における臨時救護の実施

各種の競技会、大会、祭典等に際し、主催者からの要請により赤十字奉仕団による救護員を派遣し、臨時救護活動を実施した。

	派 遣 会 場	派遣救護員数	傷病者取扱数人
看 護 奉 仕 団	41会場	92人	80人
特殊救護奉仕団	14会場	125人	344人

第7 赤十字奉仕団による活動

千葉県赤十字奉仕団は、市・区・町村を活動エリアとする地域奉仕団（66団）と県全域を対象に活動する特別奉仕団（8団）で構成され、それぞれが「赤十字奉仕団員の信条」に則り、地域性や専門性を活かして社会に役立つ奉仕活動を行い赤十字運動を進める大きな力となっている。

平成21年度は、

- ①社会のニーズに気づき、考え、地域に根ざした活動をより一層進めること
- ②奉仕団活動に新たに参加する仲間を増やすこと
- ③リーダーの養成を進めること
- ④青少年赤十字活動との連携、協力した取り組みを広げること
- ⑤奉仕団活動を広く具体的に知らせていくこと

などを重点に取り組んだ。

その結果、全ての奉仕団において、活動を継続させたほか、他のモデルとなる先進的な取り組みもみられた。

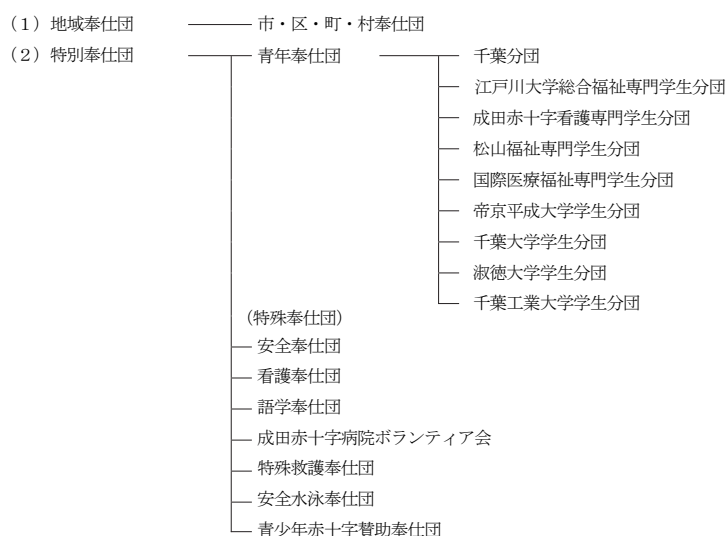
また、千葉県赤十字会館の落成を記念し、11月には奉仕団が中心となって‘見て、聞いて、知って。新たな赤十字拠点からのメッセージ’との呼びかけで「赤十字のひろば」を開催し、多くの市民に会館や赤十字運動に触れてもらうことができた。

この他、赤十字思想誕生150周年の記念行事として、地域奉仕団海外視察研修会を実施し、アンリー・デュナンがとった人道的行動の軌跡をたどり、赤十字奉仕団員としての自覚を高めた。

赤十字奉仕団員の信条

- 一、すべての人人のしあわせをねがい、陰の力となって、人人に奉仕する。
- 一、常に、くふうして、人人のために、よりよい奉仕ができるよう努める。
- 一、身近な奉仕をひろげ、すべての人人と手をつないで、世界の平和につくす。

奉仕団結成状況



1 地域に根ざした活動の展開

(1) 防災活動や災害救護訓練

毎年9月を中心に行われる県や市町村の防災（救護）訓練をはじめ、支部が隔年で実施する日本赤十字社千葉県支部合同災害救護訓練等に積極的に参加し、災害時のボランティア活動について検証した。

また、奉仕団独自に防災意識や救護技術等向上のための研修・訓練に取り組んだ。

実施内容	奉仕団の活動状況	
	地域奉仕団	特別奉仕団
防災（救護）訓練への参加	37団	青年奉仕団、安全奉仕団、語学奉仕団 病院ボランティア会、特殊救護奉仕団、安全水泳奉仕団、賛助奉仕団
防災研修等の実施	7団	安全奉仕団、特殊救護奉仕団、安全水泳奉仕団



(2) 救急法、水上安全法、幼児安全法等の普及

地域奉仕団などでは、応急手当の知識や方法習得の研修が活発に行われるなど、奉仕団員の救急法等普及に対する意識の喚起に努めた。

また、指導員を擁する特別奉仕団では、講習普及の指導技術の向上を図る研修を行った。

一般に対しては、救急法等指導員の資格を有する安全奉仕団をはじめとする各奉仕団の団員が中心となって、救急法等5つの講習会を地域、企業、学校で展開し、3万2千名を超える県民に救急法等を普及した。（各講習会の実施状況は26頁に記載）

奉仕団員対象の講習実施状況

種 別	地域奉仕団	特別奉仕団
救 急 法	41団	安全奉仕団、看護奉仕団、語学奉仕団 病院ボランティア会、特殊救護奉仕団、安全水泳奉仕団、賛助奉仕団

(3) 献血推進活動

献血ルームや献血バス等において、血液が不足する夏期・冬期のキャンペーンに加え、定期的な奉仕活動にも取り組み、献血の推進に協力した。

種 別	活 動 内 容	活 動 状 況
地域奉仕団	夏期特別献血(献血の呼びかけ・接遇他)	19団
	冬期特別献血(献血の呼びかけ・接遇他)	21団
	血液センター・献血ルーム・献血バス(献血の呼びかけ他)	27団
青年奉仕団	献血ルーム・献血バス(献血の呼びかけ他)	延べ150人
看護奉仕団	献血ルーム(健康相談他)	延べ124人



(4) 地域の高齢者や子育て世代などのニーズに応じた活動

少子高齢化が進む今日、地域のニーズに気づき、応える奉仕団活動を広げるため、平成21年度は、2つの地域奉仕団※をモデル奉仕団に指定し、一人暮らしの高齢者訪問や高齢者が集うふれあいサロン等の開設、施設訪問等の活動に創意工夫し高齢者の生活支援のための総合的な活動を実施した。

また、子育てにあたる若い世代への支援のために、幼児安全法の普及を図り、地域奉仕団と安全奉仕団の協働による「パパ・ママ安全教室」(託児付きの幼児安全法講習)を積極的に開催した。

この他、市川市赤十字奉仕団では、地域の視覚障害者のニーズに応え、本社のモデル奉仕団として点訳奉仕活動を継続的に実施し、全国的にも特筆する活動として展開している。



※ 旭市赤十字奉仕団、習志野市赤十字奉仕団をモデル奉仕団に指定

奉仕団による活動状況

種 別	活 動 内 容	活 動 状 況
高齢者の支援	施設訪問	地域奉仕団 22団
	在宅訪問	地域奉仕団 11団
	集い・その他	地域奉仕団 18団
子育て支援	パパ・ママ安全教室	安全奉仕団 地域奉仕団 17団
	防犯パトロール・その他	地域奉仕団 8団

(5) 赤十字施設での奉仕活動

成田赤十字病院では、病院ボランティア会はもとより語学奉仕団や近隣の地域奉仕団が様々な奉仕活動を行い、患者さまの苦痛を和らげた。

また、支部に、奉仕団が交替で訪れ、赤十字新聞の発送やチャリティーコインの整理などの定例的な作業奉仕を行った。

種 別	奉 仕 団
成田赤十字病院奉仕活動	地域奉仕団、病院ボランティア会、語学奉仕団
支部業務支援奉仕活動	地域奉仕団、看護奉仕団、病院ボランティア会、賛助奉仕団

(6) 各種援護活動

各種競技会、大会、祭典等において、主催者からの要請により奉仕団員が臨時救護活動や健康相談を実施した。また、医療機関等からの要請で語学奉仕団員が医療通訳や翻訳などの奉仕活動を行った。



種 別	奉 仕 団
臨時救護活動	看護奉仕団 延べ 92名
	特殊救護奉仕団 延べ125名
イベント等における健康相談	看護奉仕団 延べ 8名
通訳・翻訳奉仕活動	語学奉仕団 延べ 26名

2 ボランティアリーダーの養成

(1) 系統研修の開催

活動の中心となるボランティアリーダーを養成するため、次のとおり系統研修を実施した。

種 別	回数	参加者数 (延べ)	備 考
基礎研修会	30回	1,997人	地域奉仕団対象
基礎研修会	1回	65人	特別奉仕団対象
中級研修会	1回	38人	地域奉仕団と特別奉仕団
上級研修会	1回	42人	合同で実施
リーダー・フォローアップ研修会	1回	36人	地域奉仕団対象



(2) 技術研修の開催

奉仕活動に必要な技術を身につけるため、次のとおり技術研修を実施した。

種 別	回数	人数	備 考
地域奉仕団	1回	44人	車椅子操作他
青年赤十字奉仕団	4回	75人	エイズ・ピア・エデュケーション他
特殊奉仕団（7団）	24回	508人	奉仕団対象の救急法他



(3) 指導者研修の開催

系統研修をはじめとする各種研修会が効果的に展開できるよう、研修の講師を務める支部指導講師を対象に研修会を実施した。

回 数	人数 (延べ)	内 容
3 回	2 1 人	中級・上級研修の内容検討、講演

(4) 日赤本社等主催研修会への派遣

本社及びブロックが主催する研修会に、次のとおり奉仕団員を派遣した。

研 修 名	期日及び会場・参加人数
赤十字ボランティア・リーダー研修会 (青年赤十字奉仕団対象)	8月22日 (土)～24日 (月) 八王子セミナーハウス 1名参加
赤十字ボランティア・リーダー研修会 (地域・特殊赤十字奉仕団対象)	9月11日 (金)～13日 (日) YMCA国際青少年センター 3名参加
赤十字奉仕団支部指導講師研修会	2月24日 (水)～26日 (金) 湘南国際村センター 2名参加
HIV／エイズビディア・エデュケーション研修会 (青年赤十字奉仕団対象)	2月28日 (日) 日赤東京都支部 2名参加

3 青少年赤十字との協働活動

青少年赤十字採用校等へ奉仕団員を派遣し、学校行事や体験学習における青少年赤十字活動の運営・指導に協力した。

派遣回数	派遣人数	対象人数	備 考
1 4 回	1 3 1 名	1, 5 9 1 名	車椅子体験、高齢者疑似体験等



4 奉仕団活動の広報強化と団員の募集

(1) 奉仕団ホームページの充実

地域奉仕団の活動を広く知らせ、赤十字運動に対する興味と関心をもってもらうため、奉仕団毎に支部ホームページに掲載することとし、平成21年度は18奉仕団が実施した。

(2) 奉仕団機関誌の発行

奉仕団活動の活性化と団員相互の交流を図るため、次のとおり機関誌を発行した。

奉 仕 団	発行部数	発行月／回数
地域奉仕団広報誌「あけぼの」	3, 0 0 0	5・11月／年2回
安全奉仕団会報	3 0 0	3月／年1回
看護奉仕団会報「こだま」	2 0 0	3月／年1回
安全水泳奉仕団会報「道」	2 0 0	3月／年1回
青少年赤十字賛助奉仕団会報	2 0 0	3月／年1回

5 赤十字精神の普及と社資募集活動

(1) キャンペーンへの参加

5月・6月の赤十字運動月間及び12月のNHK海外たすけあい等のキャンペーンに参加し、赤十字思想の普及に努めた。

キャンペーン	会 場	内 容	参加奉仕団
赤十字運動月間 (5月3日～5日)	(幕張メッセ) どきどきフリーマーケットでの赤十字 ブースの展開	救急法講習指導 資材等の配布	青年奉仕団 6名 安全奉仕団16名 看護奉仕団 6名
NHK海外たすけあい (12月23日)	JR千葉駅前	募金活動 他	青年奉仕団14名



(2) 一日赤十字等の開催

赤十字思想を広く普及するとともに、奉仕団員として必要な知識、技術を身につけることを目的に、地域奉仕団を中心に各地域で「一日赤十字」を開催した。

開催会場	参加人数	内 容
32会場	1,591名	赤十字について、救急法、非常炊き出し 他



(3) 赤十字のつどいの開催

県内を5ブロックに分け、各地域において広く一般に赤十字思想の普及を図ることに重点をおき、赤十字事業の紹介や救急法講習などを開催した。

開催会場	参加人数	内 容
5会場	919名	赤十字活動紹介、救急法、非常炊き出し 他

(4) 社資募集活動

地域奉仕団が、地区・分区とともに地元の商店・企業等に赤十字社員加入や活動資金への協力を呼びかけた。その結果、企業等から寄せられた法人社資では、支部全体の5割を超える募集実績をあげた。

6 赤十字奉仕団活動を推進する会議

(1) 奉仕団支部委員会

会 議	期 日	内 容
第1回	5月27日（水）	H20活動報告、H21活動計画
臨 時	8月 1日（土）	「赤十字のひろば」について
臨 時	10月 3日（土）	「赤十字のひろば」について
第2回	11月17日（火）	H21上半期活動報告、H22活動計画
臨 時	1月18日（月）	「赤十字のひろば」反省等について

(2) 郡市（町村）奉仕団委員長会議

会 議	期 日	内 容
第 1 回	4月17日（金）	H20活動報告、H21活動計画
第 2 回	10月28日（水）	H21上半期活動報告、下半期活動計画
第 3 回	1月14日（木）	H21下半期活動報告
第 4 回	3月 2日（火）	H22活動計画

(3) 特別奉仕団委員会

奉 仕 団	実施回数	備 考
青年奉仕団	4 回	
安全奉仕団	3 回	
看護奉仕団	4 回	内 1 回は臨時委員会
語学奉仕団	3 回	
成田病院ボランティア会	1 4 回	内 2 回は臨時役員会
特殊救護奉仕団	4 回	
安全水泳奉仕団	3 回	他に定例会を 9 回開催
青少年赤十字賛助奉仕団	3 回	他に正副委員長会議を 3 回開催